

| | | | | | |
|----------|-------------|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | 小児看護方法論Ⅱ 演習 | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 科目担当者氏名 | 伊藤 洋介 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 2年後期 |

【授業の主題】

健康障害を持つ小児と家族の問題を統合的に捉え、生活・療養するための基本的知識について学ぶ。小児におこりやすい疾患や健康問題について理解を深めその看護について学習する。

【到達目標】

1. 疾患や健康レベルの経過に応じた看護の実践方法について理解し、説明できる。
2. 小児におこりやすい疾患や健康問題のレベルに応じた看護の実践方法について理解し、説明できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 症状の観察と看護—一般状態、痛み、発熱
- 第2回 症状の観察と看護—呼吸・循環器の症状
- 第3回 症状の観察と看護—消化器症状、水分・電解質異常
- 第4回 症状の観察と看護—血液、神経・筋症状、その他
- 第5回 小児の主な疾患と看護—呼吸器疾患、循環器疾患
- 第6回 小児の主な疾患と看護—消化器疾患、血液・造血器疾患
- 第7回 小児の主な疾患と看護—免疫疾患、アレルギー疾患、感染症
- 第8回 小児の主な疾患と看護—先天性異常、新生児マススクリーニング
- 第9回 小児の主な疾患と看護—代謝性疾患（Ⅰ型糖尿病）、内分泌疾患
- 第10回 小児の主な疾患と看護—腎・泌尿器および生殖器疾患、悪性新生物
- 第11回 小児の主な疾患と看護—神経疾患、その他
- 第12回 小児看護における看護過程展開①
- 第13回 急性期及び周手術期にある小児と家族の看護
- 第14回 慢性期及び終末期にある小児と家族の看護
- 第15回 小児看護における看護過程展開②（演習発表） まとめ

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

小児看護学概論、病態治療学（小児科）での学習を基に小児の特徴を理解しておくこと。

【主な関連する科目】

「小児看護学概論」「小児看護方法論Ⅰ」「病態治療学Ⅲ（小児科）」

【教科書等】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護学総論、医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護学各論、医学書院

【参考文献】

必要に応じ、授業で紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 90%、演習レポート 10%により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院にて看護職として小児患児・家族と関わった経験を活かし、小児看護の基盤となる知識や考え方を伝えていきたい。

【学生へのメッセージ】

子どもは一人の尊厳ある存在として生きる権利があります。子どもが自分を大切にし、自分に自信を持って、自分の未来に希望を抱いて幸せな日々を送れるよう、小児看護の立場から一緒に考えていきましょう。